

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)

- | | |
|-------------------|-------------|
| ① 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 大変良好な結果であった |
| ② 情報の扱い方に関する事項 | 大変良好な結果であった |
| ③ 我が国の言語文化に関する事項 | 大変良好な結果であった |
| ④ 話すこと・聞くこと | 良好な結果であった |
| ⑤ 書くこと | 大変良好な結果であった |
| ⑥ 読むこと | 大変良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 良好な結果であった |
| ② 短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

正答率の高かった設問

目的や場面に応じて質問することを見分ける力に関する内容

正答率の低かった設問

記号問題で部分的には適切だが、一部不適切な選択肢を誤答であると見極める内容

分析

1 成果

文章の内容理解や、漢字を書く問題等は良好な結果であった。

2 課題

条件を網羅している選択肢を解答する問題（記号問題）や、復習条件が設定されている作文問題の正答率が低く、文や文章を隅々まで読み取ることや、作文する力に課題がある。

3 授業での重点的な取組み

文章の内容理解に留まらず、文章構成や読み方について指導していきたい。
そのため、授業では複数条件のある作文を書く時間を設けたり、単元の最後にふりかえりを書いて評価することで、文章を隅々まで読めているか確認する素材としている。

(領域ごと)

- | | |
|----------|-------------|
| ① 数と式 | 大変良好な結果であった |
| ② 図形 | 大変良好な結果であった |
| ③ 関数 | 大変良好な結果であった |
| ④ データの活用 | 大変良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 大変良好な結果であった |
| ② 短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率) 良好な結果であった

(その他)

・もっとも正答率の高かった設問

問題場面における考察の対象を明確にとらえることができるかどうかをみる内容

・もっとも正答率の低かった設問

複数のデータを分布を比較してとらえ判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる内容

分析

1 成果

日々取り組んでいる計算や、調査当日よりさかのぼって学習して間がない設問は、良好な結果であった。

2 課題

証明問題など、数学的用語を用いて自分のことばで説明する力に課題がある。
日頃の授業でも、問題を分析・比較する問題には意欲的に取り組んでいるが、証明問題などは苦手とする傾向がある。

3 授業での重点的な取組み

計算問題ばかりではなく、文章を読み、自分のことばで説明や証明ができるように指導や活動をしていきたい。

授業では、答えを書くだけでなく、考えの過程を書いたり、図などで表したり、周りと共有する時間をつくるようにしている。その時間の中で、自分の考えを言う力だけでなく、周りに理解してもらえるような言葉を使える力をつけたい。
そして、証明問題の力につなげていきたい。

(領域ごと)

- | | |
|-------|-------------|
| ①聞くこと | 大変良好な結果であった |
| ②読むこと | 大変良好な結果であった |
| ③書くこと | 大変良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 大変良好な結果であった |
| ②短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率) 良好な結果であった

(その他)

正答率の高かった設問

「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかみる内容

正答率の低かった設問

日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる内容

分析

1 傾向

「読むこと」「聞くこと」「書くこと」について、基本的な力が身につけているが、「書くこと」について、特にまとまりのある文章を書くことに課題がある。「話すこと」については、無回答率が少なく、英語を使って相手に伝えようとする姿勢が感じられる。

2 成果

特に「読むこと」「聞くこと」について、目的に応じて必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることに関する正答率が高いなど良好な結果であった。

3 課題

社会的な話題について自分の考えや意見を書くこと、日常的な話題について事実や自分の考えを整理して、まとまりのある文章を書くことに課題がある。また、「話すこと」に関して、文法事項の誤りが多かった。

4 授業での重点的な取組み

基本的な文法事項の指導にとどまらず、社会的な話題や身の回りの話題について自分の意見をまとめ発信する活動を行っていく。授業では毎回スモールトークを取り入れ、まずは英語をたくさん使う時間を増やして、英語に慣れ親しむことを大事にしていきたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

国語

正答率は毎年上がっており、過去6年間、右肩上がりで、今年度も昨年度より増加している。また、無解答率も昨年度よりも減少しており、生徒の諦めない姿が見てとれる。

数学

正答率は昨年度とほぼ同じだが、過去6年間で最も高い。ただ、無解答率は昨年度から増加している。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

国語

学力高位層は、過去5年間で増加傾向にある。しかし、学力低位層も3年前から増えており、学力低位層に向けたアプローチが必要である。

数学

学力高位層は昨年度から減少しており、過去3年間で最も少なかった。ただ、学力低位層も減少しており、過去3年間で最も少なかったので、中間層が増えている。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

1 基礎学力の定着

- ・国語では、漢字の定着を図るために、定期的に小テストを行っている。
- ・社会では、言葉の定着を図るために、授業の導入で復習タイム取っている。
- ・数学では、定期考査の問題を何度も解くことで、知識の定着を図っている。
- ・理科では、授業で使った言葉を使って、文章をまとめる活動を取り入れている。
- ・英語では、帯活動として、生徒同士で単語の問題を出し合うことで単語の定着を図っている。

2 言語活動の充実

各教科で授業終わりや単元終わり、定期考査前後にふりかえりの時間を作り、学んだことを言語化することをとおして、知識の定着につなげている。
また、毎朝10分の読書タイムを大切に、語彙の習得を図っている。

3 授業方法・内容の工夫と改善

『協働学習』の涵養を目的に、全教室に『KDGタイム』（協働学習タイム）の掲示物を置いた。生徒のすべきことが明確になっているとともに、生徒同士をつなぐきっかけになっている。協働学習をとおして、1人では思いつかなかった考えが浮かぶなど、難しい課題に挑戦する生徒の姿がある。

4 学校全体としての取組み

①生徒への取組み

- ・全教室に『KDGタイム』（協働学習タイム）の掲示物を置いた。
- ・生徒の視覚支援のために、積極的に電子黒板を使って授業を進めている。
- ・夏休み中及び2学期始業後に「宿題やりきろう会」を行った。
- ・定期考査前に学習会を行っている。
- ・4月に「いま未来手帳」の使い方について講座を開いた。
- ・毎朝10分間、読書の時間を設定し、語彙力の向上に取り組んでいる。

②教職員の取組み

- ・定期的に教科会議を開き、授業方法について教員間の情報共有をしている。
- ・定期的に授業交流期間を設定し、教員間で授業のアドバイスをし合っている。
- ・10月に研究授業を行い、授業改善につなげている。